令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	特定非営利活動法人まちづくり山形		
事業名	中心市街地まちづくり計画に関するワークショップ開催と計画情報周知		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型[まちづくり]）		
団体の所在市町村	山形市	事業費	６０９，４２７円
		うち助成金額	５５０，０００円
事業実施期間	令和　７年　６月　１１日　から　令和　８年　２月　２８日		

事業目的・実施内容

（事業目的）

中心市街地では文翔館を中心に歴史文化ゾーンが広がり、その中で御殿堰、千歳館などの整備活用事業が進行中である。また市民会館、済生館、駅前など新規にプロジェクトが構想・計画中である。その他にも多くの構想とマンション建設などが見込まれている中心市街地について、将来の市街地づくりに向けて、情報収集とそれに基づくワークショップ（WS)を実施して、市街地の将来像や計画の方針ないしガイドプランなどを話し合って、できるだけ多くの市民にわかりやすく情報提示することを目的としている。

（実施内容）

中心市街地で進行中の事業、新規プロジェクト、構想などについて、わかりやすく客観的適切に資料化し、今後のまちづくりについて考えるためのプログラムをつくり、まちづくりWS参加者を募集して3回のWSを実施し、その結果をパンフレットなどにまとめ広く情報発信した。

① 第1回ワークショップ
実施日:10月27日　　参加者:15名
3名による話題提供後3つのグループで各テーマについて話し合い議事録を作成した。

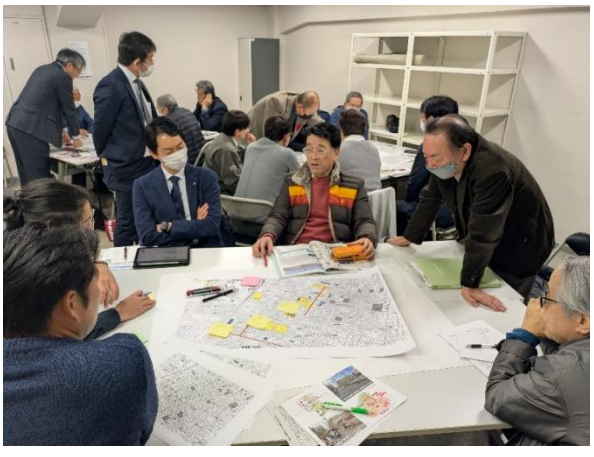
② 第2回ワークショップ
実施日:12月2日　　参加者:18名
ゲスト1名と2名の話題提供後3つのグループで話し合い議事録を作成した。

③ 第3回ワークショップ
実施日:1月14日　　参加者:24名
ゲスト1名と2名の話題提供後3つのグループで話し合い議事録を作成した。

④ ネットラジオなどによる配信
Shikisaiラジオに画像付きネットラジオ配信を委託し、12月4日に収録後、配信された。

⑤ ガイドライン作成とHP掲載および山形市関係課に提出
議事録を整理しガイドラインを作成し、NPOのホームページにその内容を掲示し、市関係課に提出した。関係課から、他の関係する課にも情報共有することを約束いただいた。





事業の成果	様々な主体によって計画されている中心市街地のプロジェクトは、それぞれ個別的にならざるを得ないけれども、個別バラバラのままでよいわけではない。沿道や地区がまとまりをもつように基本方針などを共有するために、当事者などに対して第3者からコメントや提言があることは有用であるし、情報を共有してオープンに話し合えることは、事前に事業を吟味する機会を提供して、計画案の修正や改善につなげる可能性を高める。今回情報共有WSをとりまとめガイドライン提案を広く発信するとともに、市へ直接提示できたことが成果の端緒といえる。市が計画内容の吟味や改善につなげるかは今後の市の事業を見守る他ない。したがって同様の作業を継続していくことの意義は大きい。今回の活動がそのような活動につながるように、NPOとして活動していきたい。
今後の展望	市内4学協（建築学会、建築士会、建築家協会、建築士事務所協会）およびまちづくりに関連する団体、市民に呼びかけて、集まったメンバーによって進化したガイドライン作りに取り組む体制をつくり、市内中心市街地の開発、まちづくりの情報収集を定期的に実施して、その情報開示とガイドの基本方向づくりを継続していく。

構




2025年（令和7年）12月10日（水曜日）　地域　山形　欄

中心市街地 将来像は

再開発進む山形

NPO法人まちづくり山形（相羽康郎代表）は、大規模な再開発計画が進む山形市中心市街地のまちづくりについて、市民が意見交換するワークショップを10月から市内で開いている。今月2日には2回目を開催し、歴史と学びを組み合わせて人を呼び込む仕掛けなど、参加者がまちの将来像を語り合った。

NPOがワークショップ　歴史、文化活用 市民がアイデア

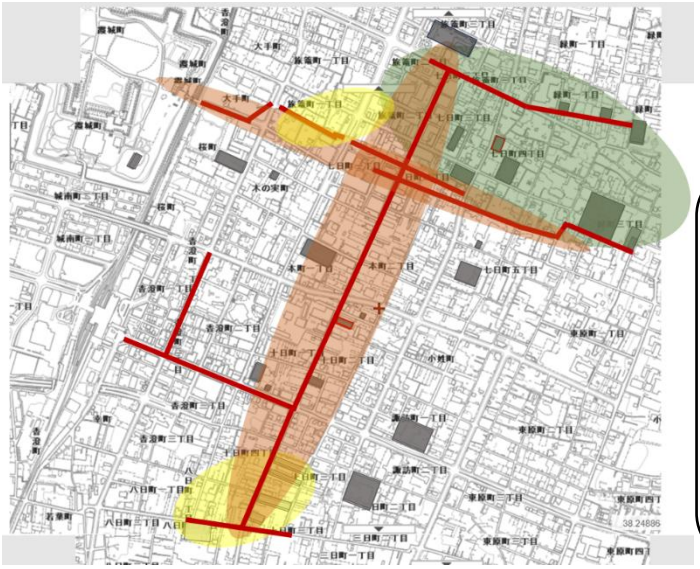
市内では、旧大沼山形本店を含むエリア再開発を巡る基本構想の策定、旧県民会館跡地での新市民会館建設など、大型プロジェクトが同時並行で進んでいる。ワークショップは、はっきりとした計画の全体像が見えていない状況を踏まえ、情報の共有と発信などを目的に、県社会貢献基金の助成事業として企画した。

2回目は、やまがたクリエイティブシティセンターQ1で、約20人が参加して開いた。相羽代表や東北芸術工科大の鍋野友哉非常勤講師らの話題提供を受け、参加者は3グループに分かれて七日町エリアや霞城公園、県民ふれあい広場などの回遊性を高めるためのアイデアを出し合った。

参加者からは、歴史や文化を生かす取り組みとして「点在する明治以降の建物をつなぐ道を提案し、歴史の記憶をとどめる仕掛けを考案してはどうか」といった意見が出された。御殿堰を含む周辺エリアの活用については「桜水空間として素晴らしい資源。文翔館につながる目抜き通りと組み合わせ、暮らしや学び、観光のシンボルになるのではないか」との声もあった。

来年1月中旬には最終回となる3回目を開く。まちづくり山形は、意見を集約して、年度内に市民有志の提案として市に提出する。（小林達也）

中心市街地のまちづくりについて市民が意見交換した第2回ワークショップ＝山形市・やまがたクリエイティブシティセンターQ1



団体概要

団体名　特定非営利活動法人まちづくり山形

代表者　相羽康郎

URL https://matidukuriyamagata.work/

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	中心市街地まちづくり計画に関するワークショップ開催と計画情報周
団体名	特定非営利活動法人まちづくり山形

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	550,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		
自己資金	59,427	
合計	609,427	

２　支出の部

区分	精算額	
謝金	200,000	講師、アドバイザー謝金
旅費	37,000	講師交通費、宿泊費
印刷製本費	42,901	チラシおよびWS資料コピー
消耗品・材料購入費	1,026	WS用筆記用具、模造紙
通信運搬費		
保険料		
使用料		
人件費	218,500	議事録まとめ、WS資料、ガイドライン、HP作成
（委託費）	110,000	Shikisaiネットラジオ配信
（備品購入費）		
（修繕費）		
合計	609,427	